

⑩ 公開特許公報(A)

昭61-176518

⑩ Int. Cl.⁴

A 61 K 7/28

識別記号

庁内整理番号

7133-4C

⑩ 公開 昭和61年(1986)8月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全8頁)

⑩ 発明の名称 口腔洗浄剤

⑩ 特 願 昭60-17476

⑩ 出 願 昭60(1985)1月31日

⑩ 発 明 者 瀬 間 徹 横浜市金沢区長浜72-12
 ⑩ 発 明 者 渡 辺 治 雄 東久留米市大門町2-5-18 A-606
 ⑩ 発 明 者 余 吾 益 弘 船橋市夏見2-33-2 船見ハイフ203
 ⑩ 出 願 人 ライオン株式会社 東京都墨田区本所1丁目3番7号
 ⑩ 代 理 人 弁理士 小島 隆司

明 細 書

1. 発明の名称

口腔洗浄剤

2. 特許請求の範囲

1. デキストラナーゼを全体の100～

200000単位/㎖及び香料を全体の0.01～2重量%含む液状の口腔洗浄剤に対し、緩衝剤を全体の0.002～0.15モル/l及びノニオン系界面活性剤を全体の0.01～7重量%配合し、pHを5～7に調整してなることを特徴とする口腔洗浄剤。

2. 緩衝剤が、フタル酸、リン酸、クエン酸、コハク酸、酢酸、フマル酸、リンゴ酸及び炭酸並びにそれらのナリウム、カリウム及びアンモニウム塩；アミノ酸及びその塩類；リボ糖酸及びその塩類；水酸化ナトリウム・ホウ砂；塩酸・炭酸水素塩から選ばれる1種又は2種以上である特許請求の範囲第1項記載の口腔洗浄剤。

3. アミノ酸が中性アミノ酸又は酸性アミノ酸

である特許請求の範囲第2項記載の口腔洗浄剤。

4. 中性アミノ酸がグリシン、アラニン、セリン又はロイシンである特許請求の範囲第3項記載の口腔洗浄剤。

5. 酸性アミノ酸が、アスパラギン酸、グルタミン酸又はアスパラギングルタミンである特許請求の範囲第3項記載の口腔洗浄剤。

6. リボ糖酸の塩類が5'-イノシン酸ナトリウム、5'-ウリジル酸ナトリウム又は5'-グアニル酸ナトリウムである特許請求の範囲第2項記載の口腔洗浄剤。

7. ノニオン系界面活性剤が、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン高級アルコールエーテル、ポリオキシエチレンアリルエーテル、ポリオキシエチレンラノリン誘導体、ポリオキシエチレンラノリンアルコール誘導体、ポリオキシエチレンヒマシ油誘導体、ポリオキシプロピレンポリオキシ

エチレンセチルアルコールエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェノールフォルムアルデヒド縮合物誘導体、ポリオキシエチレンアルキルアミン、ポリオキシエチレンアルキルアミドから選ばれる1種又は2種以上である特許請求の範囲第1項乃至第6項いずれか記載の口腔洗浄剤。

3. 発明の詳稱を説明

産業上の利用分野

本発明は、デキストラナーゼを含有するマウスウォッシュ等の口腔洗浄剤に関し、更に詳述すると、保存時におけるデキストラナーゼの失活が確実に抑制され、その有効性が長期間に亘って良好に発揮される口腔洗浄剤に関する。

従来の技術及びその問題点

従来、う蝕予防の有効成分として、歯垢の形成を抑制するためにデキストラナーゼを口腔用組成物に配合することが知られている。

しかしながら、デキストラナーゼは水等の溶媒の影響で失活し易く、従って水等の溶媒を多く含む液状の口腔洗浄剤にデキストラナーゼを配合し

ると共に、品質の良好な口腔洗浄剤が得られることを知見し、本発明をなすに至ったものである。

以下、本発明につき更に詳しく説明する。

発明の構成

本発明の口腔洗浄剤は、デキストラナーゼを全体の100～200000単位/ℓ及び香料を全体の0.01～2重量%含む液状口腔洗浄液に対し、緩衝剤を全体の0.002～0.15モル/ℓ及びノニオン系界面活性剤を全体の0.01～7重量%配合し、pHを5～7に調整したもので、マウスウォッシュ等として用いられるものである。

この場合、デキストラナーゼとしては種々のデキストラナーゼ産生菌から産生されたものを使用することができ、例えばベニシリウム属、アスペルギルス属、ケトミウム属、ストレプトマイセス属、スポロチチウム属、バチルス属等由来のものを使用することができるが、デキストラン分解菌の点から糸状菌ケトミウム属由来のものを使用することが最も好ましい。

なお、デキストラナーゼの配合量は、上述した

場合、デキストラナーゼが保存時、特に高温保存時に相当程度活性を失い、その有効性が良好に発揮されないという問題がある。

また、マウスウォッシュ等の液状口腔洗浄剤には通常アニオン系界面活性剤を香料の可溶化剤として配合しているが、デキストラナーゼはアニオン活性剤の影響によっても失活し易いという問題がある。

発明の概要

本発明者らは、上記事情に鑑み、マウスウォッシュ等の液状の口腔洗浄剤に対してデキストラナーゼを安定に配合することにつき鋭意研究を行った結果、デキストラナーゼを全体の100～200000単位/ℓ及び香料を全体の0.01～2重量%含有する口腔洗浄剤に対し、緩衝剤を配合し、pHを5～7の範囲に調整保持すると共に、香料の可溶化剤としてノニオン系界面活性剤を全体の0.01～7重量%配合した場合、意外にもデキストラナーゼの失活が抑制され、長期間に亘ってデキストラナーゼが安定に保持され

ように洗浄剤全体に対して100～200000単位/ℓ洗浄剤とするものであるが、特に原液タイプの場合200～10000単位/ℓ、希釈タイプの場合500～100000単位/ℓとすることが好ましい。ここで1単位とはデキストランを基質として反応を行なった場合、1分間当りグルコース1μgに相当する還元還元糖を生ずる酵素量をいう。

本発明において、香料としては、メントール、カルボン、アネトール、オイゲノール、サリチル酸メチル、リモネン、オシメン、ローデシルアルコール、シトロネロール、α-テルピネオール、メチルアセテート、シトロネリルアセテート、メチルオイゲノール、シネオール、リナロール、エチルリナロール、ワニリン、チモール、スベアミント油、ペパーミント油、レモン油、オレンジ油、セージ油、ローズマリー油、桂皮油、ビメント油、桂葉油、シソ油、冬樟油、丁香油、ユーカリ油等の1種又は2種以上を用いることができる。

更に、本発明においては、これら香料の可溶化剤としてノニオン系界面活性剤を用いるものであるが、ノニオン系界面活性剤としては、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン高級アルコールエーテル、ポリオキシエチレンアリルエーテル、ポリオキシエチレンラノリン誘導体、ポリオキシエチレンラノリンアルコール誘導体、ポリオキシエチレンヒマシ油誘導体、ポリオキシプロピレンポリオキシエチレンセチルアルコールエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェノールフォルムアルデヒド縮合物誘導体、ポリオキシエチレンアルキルアミン、ポリオキシエチレンアルキルアミドから選ばれる1種又は2種以上を用いることが好ましい。

本発明の口腔洗浄剤は、上述したように緩衝剤を加え、 pH を5～7の範囲に調整、保持するのであるが、緩衝剤としてはフタル酸、リン酸、クエ

ル酸が確実に発揮されるが、この範囲より外れた場合はデキストラナーゼ安定化効果が十分でなく、本発明の目的が達成されない。また特に、緩衝剤配合量が0.002モル/lより少ないと pH の安定化に効果がなく、0.15モル/lより多いと pH の安定化効果が飽和状態に達する上、その溶解性や洗浄剤の使用感の点で問題が生じる。

本発明洗浄剤の pH は上述したように5～7の範囲とするものであり、洗浄剤をこの pH 範囲に保つことにより、デキストラナーゼの失活が良好に防止される。これに対し、洗浄剤の pH を5～7の範囲外とする場合はデキストラナーゼが失活されなくなり、デキストラナーゼを安定に保持し得ないため好ましくない。なお、 pH のより好ましい範囲は5.5～6.5である。

本発明の口腔洗浄剤は、上述した成分を溶媒に溶解するものであるが、溶媒としては水、エチルアルコール、イソプロピルアルコール、更にソルビット酸、グリセリン、エチレングリコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコ

ール酸、コハク酸、酢酸、フマル酸、リンゴ酸及び炭酸並びにそれらのナトリウム塩、カリウム塩及びアンモニウム塩やアミノ酸及びその塩類、リボ核酸及びその塩類、更に水酸化ナトリウム・ネウチン、塩酸・炭酸水素塩などから選ばれる1種又は2種以上が好適に用いられる。これらのうちでは、特に中性アミノ酸もしくは酸性アミノ酸又はその塩を用いることが好ましい。ここで、中性アミノ酸としてはグリシン、アラニン、セリン及びロイシンが、酸性アミノ酸としてはアスパラギン酸、グルタミン酸及びアスパラギングルタミンがそれぞれ挙げられる。また、リボ核酸及びその塩類も好ましく、リボ核酸の塩類としては5'-イノシン酸ナトリウム、5'-ウリジル酸ナトリウム、5'-グアニル酸ナトリウム等が好適に用いられる。

なお、緩衝剤の配合量は全体の0.002～0.15モル/l、好ましくは0.01～0.1モル/lとするものであり、緩衝剤の配合量がこの範囲内にある場合はデキストラナーゼ安定化効

果、ポリエチレングリコール(#400～#4000)、ポリプロピレングリコール、キシリット、マルチット、ラクチット等の多価アルコール類の1種又は2種以上を配合したのを用いることが好ましい。なお、水の配合量は全体の0～99重量%、特に20～90重量%、エチルアルコールやイソプロピルアルコールの配合量は全体の0～6重量%、特に10～80重量%、多価アルコールの配合量は全体の0～99重量%、特に10～80重量%とすることが好ましい。この場合、本発明洗浄剤は上述した構成としたことにより、水系においてデキストラナーゼが安定に配合されるものである。

更に、本発明口腔洗浄剤の他の成分としては、通常使用される適宜な成分が配合され得る。

例えば、サッカリンナトリウム、ステビオサイド、ネオヘスペリツルジヒドロカルコン、グリチルリチン、ペリラルチン、タウマチン、アスパラチルフェニルアラニンメチルエステル、p-メトキシシンナミックアルデヒドなどの甘味剤(0～

1質量%、好ましくは0.01~0.5質量%)、
 p-ヒドロキシメチルベンゾイックアシド、p-
 ヒドロキシエチルベンゾイックアシド、p-ヒドロ
 キシアロビルベンゾイックアシド、p-ヒドロキ
 シブチルベンゾイックアシド、安息香酸ナトリウ
 ム、低粘度助剤モノグリセライドなどの防腐剤、
 セラチン、ペプトン、アルギニン塩酸塩、アルブ
 ミン、カゼイン、色素、その他の成分を配合し得
 る。

また、有効成分として、デキストラナーゼに加
 えてアミラーゼ、プロテアーゼ、ムタナーゼ、リ
 ソチーム、溶菌酵素、リテックエンザイム等の酵
 素、モノフルオロリン酸ナトリウム、モノフルオ
 ロリン酸カリウムなどのアルカリ金属モノフルオ
 ロホスフェート、フッ化ナトリウム、フッ化第1
 価等のフッ化物、トラネキサム酸やイブシロンア
 ミノカブロン酸、クロルヘキシラン塩酸塩、クロ
 ルヘキシラングルコン酸塩、アルミニウムクロル
 ヒドロキシルアラントイン、ワヒドロコレステロ
 ール、グリチルリチン酸、グリチルリチンヅカリ

ウム、グリチルレチン酸、グリセロホスフェート、
 クロロフィル、銅クロロフィリンナトリウム、還
 化ナトリウム、カルベプタイド、水溶性無機リン
 酸化合物、アズレン、カミツレ、当歸、芍薬、川
 芎、生薑、既述などの生薬類等の有効成分を1種
 又は2種以上配合し得る。

発明の効果

本発明の洗浄剤は、その成分濃度に応じ、その
 ままもしくは水等で希釈して適用するものである
 が、本発明の口腔洗浄剤は、保存時におけるデキ
 ストラナーゼの失活が確実に抑制され、デキスト
 ラナーゼの有効性が長期間に亘って保持されるの
 で、口腔内に適用した場合デキストラナーゼの効
 果が有効に発揮されるものである。

次に実施例及び比較例を示し、本発明を具体的
 に説明する。

なお、下記の例において%はいずれも質量%を
 示す。

【実施例1~3、比較例】

第1表に示す実施例1~3、比較例1~5の口

腔洗浄剤をそれぞれ調製し、これらを40℃で1
 ケ月保存した後におけるデキストラナーゼの残存
 活性を調べた。結果を第1表に示す。なお、試験
 結果の評価基準は下記の通りである。

- ：残存活性が調製時の70%以上
- △： " 30~70%
- ×： " 30%以下

	実 施 例			比 較 例				
	1	2	3	1	2	3	4	5
デキストラナーゼ(200万単位/9)	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
クエン酸	0.237	0.23	—	0.382	0.015	0.004	0.948	0.23
リン酸水素二ナトリウム	0.688	0.69	—	0.568	0.877	0.014	2.752	0.69
グルタミン酸ナトリウム	—	—	0.8	—	—	—	—	—
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	5	—	—	5	5	5	5	—
ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル	—	5	5	—	—	—	—	—
ソジウムラウリルサルフェート	—	—	—	—	—	—	—	2
香料	1	1	1	1	1	1	1	1
85%グリセリン	10	—	10	10	10	10	10	—
60%ソルビット	—	10	—	—	—	—	—	10
安息香酸ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
エチルアルコール	3	3	3	3	3	3	3	3
サッカリンナトリウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
水	残	残	残	残	残	残	残	残
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
緩衝剤の配合モル量(モル/1)	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.001	0.2	0.05
pH	6	6.3	5.6	4.5	8	6	6	6.5
試 験 結 果	O	O	O	X	X	X	X	X

なお、上記組成の口腔洗浄剤はいずれも使用する時は10倍に希釈して適用するものである。

第1表の結果より、本発明口腔洗浄剤においてはデキストラナーゼが高湿保存時においても安定であることが認められた。これに対し、pHが低い比較例1、pHが高い比較例2、緩衝剤配合量が少ない比較例3、緩衝剤配合量が多い比較例4、アニオン系界面活性剤を用いた比較例5の口腔洗浄剤は、いずれもデキストラナーゼが高湿保存時において不安定なものであった。

なお、実施例1～3の洗浄剤は室温で3年間保存した後のデキストラナーゼの残存活性が80%以上であり、長期保存後も十分安定であることが認められた。

〔実施例4〕

デキストラナーゼ	0.01%
(200万単位/9)	
5'-グアニル酸ナトリウム	0.8
クエン酸	0.2
ポリオキシエチレン(60)	5
硬化ヒマシ油	
香料	1

85%グリセリン	10
安息香酸ナトリウム	0.5
エチルアルコール	3
サッカリンナトリウム	0.2
水	残
	100.0%

この口腔洗浄剤のデキストラナーゼ残存活性を実施例1～3と同様に評価した結果は“O”であった。

出 願 人 ラ イ オ ン 有 限 公 司
代 理 人 弁 理 士 小 島 隆 司

手 続 補 正 書 (自 発)

昭和60年3月20 日

特許庁長官 志 賀 孝 殿



1. 事件の表示

昭和60年特許願第17476号

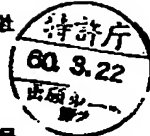
2. 発明の名称

口腔洗浄剤

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都墨田区本所1丁目3番7号
氏 名 (676) ライオン株式会社
代表者 小 林 敏



4. 代 理 人 〒104

住 所 東京都中央区銀座3丁目11番14号
ダバクリエートビル5階 電話(545) 8454
氏 名 弁理士(7930) 小 島 隆 司



5. 補正の対象

明細書の「特許請求の範囲」の欄及び「発明の詳細な説明」の欄。



(8) 第14頁の表を下記の通り訂正する。

6. 補正の内容

(1) 別紙の通り、特許請求の範囲を訂正する。

(2) 明細書第5頁第8行目乃至第9行目
「0.002~0.15モル/l」とあるのを

「0.002モル/l以上」と訂正する。

(3) 同第8頁第17行目乃至第18行目

「0.002~---0.1」とあるのを

「0.002モル/l以上、好ましくは0.01~1」と訂正する。

(4) 同第9頁第5行目「0.15モル/l」とあるのを「1モル/l」と訂正する。

(5) 同第9頁第7行目「問題が生じる。」とあるのを「問題が生じる場合がある。」と訂正する。

(6) 同第12頁第19行目、第20行目、第15頁第9行目及び第16頁第8行目にそれぞれ「実施例1~3」とあるのをいずれも「実施例1~5」と訂正する。

(7) 同第12頁第20行目、第13頁第3行目及び第15頁第1行目にそれぞれ「第1表」とあるのをいずれも「第1表及び第2表」と訂正する。

第 1 表

	実 施 例				
	1	2	3	4	5
デキストラナーゼ (200万単位/9)	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
ク エ ン 酸	0.261	—	—	0.2	2.18
リン酸水素二ナトリウム	0.859	—	—	—	5.49
グルタミン酸ナトリウム	—	0.8	—	—	—
ア ラ ニ ン	—	—	8.9	—	—
5-イノシン酸ナトリウム	—	—	—	0.8	—
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	5	—	5	—	5
ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル	—	5	—	5	—
ソウウムラウリルサルフェート	—	—	—	—	—
香 料	1	1	1	1	1
85%グリセリン	10	—	10	10	10
60%ソルビット	—	10	—	—	—
安息香酸ナトリウム	—	0.5	0.5	—	0.5
エチルアルコール	3	—	3	3	—
メチルパラベン	0.3	0.3	—	0.3	0.3
サッカリンナトリウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
水	残	残	残	残	残
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
緩衝剤の配合モル量 (モル/l)	0.06	0.04	1.0	0.01	0.5
pH	6.2	5.8	5.5	6.0	5.9
試験結果 (デキストラナーゼ安定性)	○	○	○	○	○

第 2 表

	比 較 例				
	1	2	3	4	5
デキストラナーゼ (200万単位/9)	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
ク エ ン 酸	0.382	0.015	0.004	3.05	0.26
リン酸水素二ナトリウム	0.568	0.877	0.014	7.69	0.65
グルタミン酸ナトリウム	—	—	—	—	—
ア ラ ニ ン	—	—	—	—	—
5-イノシン酸ナトリウム	—	—	—	3.92	—
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	5	—	5	—	2
ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル	—	5	—	5	—
ソウウムラウリルサルフェート	—	—	—	—	1
香 料	1	1	1	1	1
85%グリセリン	10	—	10	—	10
60%ソルビット	—	10	—	10	—
安息香酸ナトリウム	0.5	0.5	—	—	—
エチルアルコール	—	—	3	3	3
メチルパラベン	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サッカリンナトリウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
水	残	残	残	残	残
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
緩衝剤の配合モル量 (モル/l)	0.06	0.06	0.001	0.7	0.08
pH	4.5	8.0	6.0	8.0	6.2
試験結果 (デキストラナーゼ安定性)	×	×	×	×	×

なお、上記組成の口腔洗浄剤はいずれも使用する時は10倍に希釈して適用するものである。
また、緩衝剤のモル量の計算において、クエン酸及びリン酸水素二ナトリウムは加水物として計算した。

(9) 同第15頁第13行目「実施例4」とあるのを「実施例6」と訂正する。

以 上

5. 酸性アミノ酸が、アスパラギン酸、グルタミン酸又はアスパラギングルタミンである特許請求の範囲第3項記載の口腔洗浄剤。

6. リボ核酸の塩類が5'-イノシン酸ナトリウム、5'-ウリジル酸ナトリウム又は5'-グアニル酸ナトリウムである特許請求の範囲第2項記載の口腔洗浄剤。

7. ノニオン系界面活性剤が、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン高級アルコールエーテル、ポリオキシエチレンアリルエーテル、ポリオキシエチレンラノリン誘導体、ポリオキシエチレンラノリンアルコール誘導体、ポリオキシエチレンヒマシ油誘導体、ポリオキシプロピレンポリオキシエチレンセチルアルコールエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェノールフォルムアルデヒド縮合物誘導体、ポリオキシエチレンアルキルアミン、ポリオキシエチレ

特許請求の範囲

「1. デキストラナーゼを全体の100～

200000単位/oz及び香料を全体の

0.01～2重量%含む液状の口腔洗浄剤に対し、緩衝剤を全体の0.002モル/l以上及びノニオン系界面活性剤を全体の0.01～7重量%配合し、pHを5～7に調整してなることを特徴とする口腔洗浄剤。

2. 緩衝剤が、フタル酸、リン酸、クエン酸、コハク酸、酢酸、フマル酸、リンゴ酸及び炭酸並びにそれらのナトリウム、カリウム及びアンモニウム塩；アミノ酸及びその塩類；リボ核酸及びその塩類；水酸化ナトリウム・ホウ砂；塩酸・炭酸水素塩から選ばれる1種又は2種以上である特許請求の範囲第1項記載の口腔洗浄剤。

3. アミノ酸が中性アミノ酸又は酸性アミノ酸である特許請求の範囲第2項記載の口腔洗浄剤。

4. 中性アミノ酸がグリシン、アラニン、セリン又はロイシンである特許請求の範囲第3項記載の口腔洗浄剤。

ンアルキルアמידから選ばれる1種又は2種以上である特許請求の範囲第1項乃至第6項いずれか記載の口腔洗浄剤。」

DERWENT-ACC-NO: 1986-248711

DERWENT-WEEK: 199718

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Stable mouth-wash compsn. - comprises dextranase,
flavourant, buffering agent and nonionic surfactant

PATENT-ASSIGNEE: LION CORP[LIOY]

PRIORITY-DATA: 1985JP-0017476 (January 31, 1985)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	
MAIN-IPC				
JP 61176518 A	August 8, 1986	N/A	008	N/A
JP 2531132 B2	September 4, 1996	N/A	004	A61K
007/28				

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 61176518A	N/A	1985JP-0017476	January 31, 1985
JP 2531132B2	N/A	1985JP-0017476	January 31, 1985
JP 2531132B2	Previous Publ.	JP 61176518	N/A

INT-CL (IPC): A61K007/28

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 61176518A

BASIC-ABSTRACT:

Compsn. comprises 100 to 200000 units/ml dextranase, 0.01 to 2 wt.% flavourant, 0.002 to 0.15 mole/l of buffering agent, and 0.01 to 7 wt.% nonionic surfactant, and is of pH 5 to 7. Pref. the buffering agent is phthalic, phosphoric, citric, succinic, acetic, fumaric, malic or carbonic acid or their sodium, potassium or ammonium salts, aminoacid or its salt, ribonucleic acid or its salts, sodium hydroxide/boron or hydrocholic acid/bicarbonate. Pref., the aminoacid is neutral or acidic aminoacid.

ADVANTAGE - Compsn. can be kept stable for a long time.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS: STABILISED MOUTH WASHING COMPOSITION COMPRISE DEXTRANASE FLAVOUR
BUFFER AGENT NONIONIC SURFACTANT

DERWENT-CLASS: D21 E19 E37

CPI-CODES: D08-B08; E10-A11B; E10-B02; E10-C02; E10-C04J; E31-B03D; E31-K05A;
E31-N05D; E31-Q01; E33-A03;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M3 *01*

Fragmentation Code

G011 G100 J0 J011 J012 J1 J132 J171 J172 M210

M211 M262 M280 M281 M312 M320 M321 M332 M342 M382
M391 M414 M416 M510 M520 M531 M540 M620 M782 M903
M910 P923 Q254 Q503 R023

Chemical Indexing M3 *02*

Fragmentation Code

H4 H401 H481 H8 J0 J012 J013 J1 J172 J173
M280 M312 M313 M321 M332 M343 M344 M349 M381 M391
M416 M620 M782 M903 M910 P923 Q254 Q503 R023

Chemical Indexing M3 *03*

Fragmentation Code

H7 H721 J0 J012 J1 J172 M280 M312 M321 M332
M342 M382 M391 M416 M782 M903 M910 P923 Q254 Q503
R023

Chemical Indexing M3 *04*

Fragmentation Code

A111 A940 C101 C108 C550 C730 C801 C802 C804 C805
C807 M411 M782 M903 M910 P923 Q254 Q503 R023

Chemical Indexing M3 *05*

Fragmentation Code

B105 C810 M411 M782 M903 M910 P923 Q254 Q503 R023

Chemical Indexing M3 *06*

Fragmentation Code

C017 C100 C101 C730 C800 C801 C804 C805 C806 C807
M411 M782 M903 M910 P923 Q254 Q503 R023

Chemical Indexing M3 *07*

Fragmentation Code

A111 A119 A940 C101 C106 C108 C500 C530 C550 C730
C800 C801 C802 C803 C805 C807 M411 M782 M903 P923
Q254 Q503 R023

Chemical Indexing M3 *08*

Fragmentation Code

H1 H100 H181 J0 J011 J1 J171 M280 M311 M312
M313 M314 M315 M316 M321 M331 M332 M333 M340 M342
M349 M381 M391 M416 M620 M782 M903 P923 Q254 Q503
R023

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 0247U; 0419U ; 0554U ; 0900U ; 0902U ; 1514U
; 1656U ; 1668U ; 1704U

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1986-107084